

19 キャンプファイヤー（火のつどい）

～火を囲んでの楽しい思い出づくり～

主なねらい

◎友とのきずなを強める



適 期 通年

所要時間 1～2時間

対 象 幼児～

準備物

学校・団体

自然の家

トーチ用の布（点火箇所
の布または新聞紙）

チャッカマン、

【食堂注文】

キャンプファイヤー用薪

※冬季は、炊事用薪を
注文



トーチ



ワイヤレスアンプ



女神の衣装



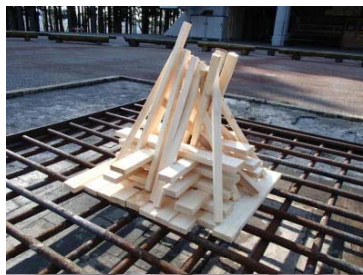
CDラジカセ

※トーチ・アンプ・ラジカセ・マイク・
ドラムコード・火の神の衣装は、常時
下記の場所にあります。

かもしか広場：赤棟非常口及びファイヤー用具倉庫
らいちょう広場ときつつき広場：不動棟のピロティーのロッカー
バケツ、スコップ、一輪車、※冬季ハーフドラム

1 キャンプファイヤーのやり方

各広場のブルーシートの中に注文した薪と灯油が写真のよう
に置いてあります。ブルーシートと紐、灯油容器は、トーチが
入れている場所にお返しください。



(1) 井桁の組み方と点火準備

- ① 細い木（炊事用）を下に敷き、その上に細い木で井桁
に組みます。上にいくにしたがい細くしていくように
組んでいきます。
- ② 井桁に組んだら、その中や周りに木を立てかけます。
- ③ 細い木で組んだ井桁の外側に太い木で井桁を組みます。
このときも同様に、上の方が狭まっているようにしま
す。
- ④ 灯油は、始まる 30 分くらい前に井桁の上からかけます。
そのとき、トーチの布にも一諸にかけておきます。

[ファイヤー場]



かもしか広場 (200人)



らいちょう広場 (300人)



きつつき広場 (100人)

(2) 消火、後片付け

※各ファイヤー場の近く（不動棟下や設置ロッカー付近）に一輪車、スコップが置いてありますので、それを使って片付けてください。

- ①火に直接水をかけると営火台がいたむので、できるだけ燃やしてください。
 - ②井桁の太い木は、営火台からおろして水をかけて消火し、当日（時間がなければ翌朝）清掃時間に後片づけをします。
 - ③風が強い時は、火ばさみとスコップで鉄板からおろして、水をかけてください。
 - ・かもしか広場 …………… 水道のホースを使って消火、横の灰捨て場へ
 - ・らいちょう広場 ……… 水道のホースを使って消火、第1炊飯棟横の灰捨て場へ
 - ・きつつき広場…………… バケツを使って消火、第1炊飯棟横の灰捨て場へ
 - ・来拝広場 ……………… バケツを使って消火、灰の捨てる場所については、要相談
- ※他の場所の場合も、上記方法に従ってください。



[らいちょう広場・きつつき広場]
第1炊飯棟のキャンプファイヤー用灰捨て場へ



[かもしか広場]
隣接の灰捨て場へ

(3) 貸し出し用具の返納

- ・貸し出しを受けた用具は、もとの場所へ返納してください。

2 活動の留意点

- ・風の強い日の実施の有無については、職員に相談してください。
- ・ファイヤーキーパーをする人は、長そで・長ズボン・帽子の服装で、皮手袋と軍手を2重にして使うと、より一層安全です。

※全員または多数でのトーチサービスをされる団体は、トーチの数に限りがありますので希望通り貸し出せない場合があります。その場合には、団体でトーチを準備してください。

(灯油が足りない場合は、食堂で購入できます。)

キャンプファイヤー活動展開例 (あくまでも「例」ですので、団体のオリジナルプログラムも大歓迎です。)

部	キャンプファイヤーの流れ
<p>第 一 部 火 を 迎 え る つ ど い</p>	<p>※気持ちをひきしめて</p> <p>1 入場 小人数の場合は一重円、100人以上の場合は二重、三重円になる</p> <p>2 開会のことば 司会：「立山連峰のふもと、この国立立山青少年自然の家にも夜のとぼりが降りてきました。しばらく雄大な自然の音に耳を傾けてみましょう。それでは、今日一日の出来事を思い出しながら“遠き山に日は落ちて”を一番は歌で、二番はハミングで歌いましょう。」</p> <p>3 火の女神（火の神）入場 円内をゆっくりと一周し、正面に立つ。そして、営火長に火を渡す。</p> <p>4 営火長のことば 司会：「営火長のことばをいただきます。」 営火長：「火は、遠い昔から、私達に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は、私達の生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることにもなるのです。しかし、この偉大な火も、使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。今、ここに燃える火は、ここに集う私達に、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。」</p> <p>5 火の守への分火と誓いのことば 司会：「次に分火し、誓いのことばを述べていただきます。火の守は、営火長の前にお集まりください。」 営火長：「あなたには〇〇の火をあげます。」 火の守：「私は、〇〇の火をいただきました。（誓いのことば）」</p> <p>6 点火 司会：「火の守は、ファイヤーの周りにお集まりください。点火してください。」 (火の守は、一斉にまきに点火する。)</p> <p>7 歌 司会：「さあ、みなさん、今あかあかと火がともりました。この火が燃え上がり、天までこがすように“燃えろよ、燃えろ”を三番まで元気よく歌いましょう」</p>
<p>第 二 部 交 流</p>	<p>司会：「さあ、燃え上がった火を囲んで、楽しいひとときを過ごしましょう。」</p> <p>※みんなで楽しむ時間です。</p> <p>歌やゲーム、班の出し物等行います。 (手遊びや歌付きゲーム、踊り、ダンスなどや音楽の時間歌、合奏、群読など)</p>

第三部 火を送るつどい	1 歌
	司会：「あれほど勢いよく燃えていた火も、いつの間にか小さくなりました。楽しかったこのファイヤーを胸におさめ、お父さん、お母さん、兄弟や家族、そして、友達のことを思い出しながら”ふるさと”を一番は歌で、二番はハミングで歌いましょう。」
	2 営火長のことば
	司会：「このキャンプファイヤーも終わりを告げようとしています。火を送るにあたって、営火長からお別れのことばをいただきます。」 (営火長は、ファイヤーの前に進み、トーチに火をつけた後正面に戻る。) 営火長：「楽しかったこのつどいも終わりに近付いたようです。今宵の私達のつどいを照らし続けてくれた意義ある火を、永遠の火といたしましょう。そして、みなさん、これからも、お互いに、協力しあい、励ましあい、がんばりましょう」
3 火の女神（火の神）退場	
司会：「終わりに“今日の日はさようなら”の歌で、火の女神を送りましょう。」 (営火長は、火の女神にトーチを渡す。火の女神は、円内をゆっくり一周して退場する。)	
4 閉会のことば	
司会：「楽しいつどいの間、私達を見守ってくれた炎も、今は、静かに消えてゆこうとしています。私達は、この宿泊生活を通して、とても素晴らしい経験を得ました。それらは、楽しく、また厳しく、生涯忘れることのできない思い出の一つとなることでしょう。この感激を胸に、明日から、また、新しい気持ちでがんばりましょう。今日のこのつどいを、小さくなった火とともに閉じたいと思います。」	

「遠き山に日は落ちて」	「燃えろよ燃えろ」
1. 遠き山に日は落ちて 星は空を散りばめぬ 今日の業をなしおえて 心かろくやすらえば 風は涼しこの夕べ いざや楽しまどいせん	1. 燃えろよ燃えろよ炎よ燃えろ 火の粉をまきあげ天までこがせ 2. 照らせよ照らせよ真昼のごとく 炎ようずまきやみ夜を照らせ 3. 燃えろよ照らせよ明るくあつく 光と熱とのもとなる炎
「ふるさと」	「今日の日はさようなら」
1. うさぎ追いしかの山 小ぶなつりしかの川 夢は今もめぐりて 忘れがたきふるさと	1. いつまでも 絶えることなく 友だちでいよう 明日の日を夢みて希望の道を 2. 空をとぶ鳥のように 自由生きる 今日の日はさようならまた会う日まで

誓いのことば

- ・友情の火 ～ 私は、友情の火をいただきました。
思いやりを忘れず、いつまでも友達を大切にすることを誓います。
- ・協同の火 ～ 私は、協同の火をいただきました。
互いに励まし、協力することを誓います。
- ・感謝の火 ～ 私は、感謝の火をいただきました。
いつまでも感謝の気持ちを忘れないことを誓います。
- ・規律の火 ～ 私は、規律の火をいただきました。
自らの心をひきしめ、規律正しく生活することを誓います。
- ・健康の火 ～ 私は、健康の火をいただきました。
これからも、心身ともに健康であり続けることを誓います。
- ・努力の火 ～ 私は、努力の火をいただきました。
何事にも、常に努力を続けていくことを誓います。
- ・奉仕の火 ～ 私は、奉仕の火をいただきました。
心から、人につくすことを誓います。
- ・自由の火 ～ 私は、自由の火をいただきました。
足元を見つめ、自分自身の道を歩んで行くことを誓います。
- ・創造の火 ～ 私は、創造の火をいただきました。
創意工夫を忘れず、常に新たな気持ちで生活していくことを誓います。
- ・希望の火 ～ 私は、希望の火をいただきました。
今日の良き思い出を忘れず、一步一步前進することを誓います。
- ・勇気の火 ～ 私は、勇気の火をいただきました。
強い体と心をつくり、くじけず、なまけず、いつも知恵ある勇気をもって、日々の向上に努力します。

【点火の工夫 立山青少年自然の家バージョン】

「立山開山伝説（概要）を使った点火の工夫」

登場人物 佐伯有頼（さえきありより）

準備物 白い衣装 弓矢（竹にひもを張ったもの）

★さえきありより 手にトーチを持って登場

パントマイムで、話に合わせて動きをする。（もし、物語を覚えることができれば一人語りしてもよい）

わたしは、さえきありよりと言うものじゃ。立山の近くで何やら楽しく過ごしている声に誘われて、

1300年も昔から時間を乗り越えてやってきてしまった。

ところで、わたしと皆さんとは、大きな関係がある。わたしは、立山に道を作り神社を建てたのじゃ。みんなが、立山の近くで遊べるのも、わたしのお陰と言うことじゃ。

わたしが、それまで、人が上ったこともなかった立山に、道を作り上れるようにしたことについては、大きな事件があったのじゃ。それを今からお話しよう。

★このあたりで、井桁に点火し、物語を続けていく。

私の父は、1300年ほど前、ここ越中の国の国司をしていた。今の県知事みたいなものじゃ。そのころわたしは、今の魚津のあたりに住んでおった。

私が16才のことであった。私は、父が大切に育てている白タカを借りて、タカがりにでかけた。ところが、しばらくするとどうしたのか、タカは、天高く逃げて行ってしまった。わたしは、父の大事なタカを見つけようと何日も何日も野宿をしながらタカを捜した。

いつのまにか、常願寺川のほとりに出たときであった。川岸の高い松の木に止まっているタカを見つけた。わたしは大喜びで、木に近付いた。その時、やぶの中から大きな熊がおそってきた。びっくりしたタカは、大空に逃げて行ってしまった。

怒った私は、弓に矢をつがえた。そして、熊の胸めがけて弓を打ち込んだ。熊は、血をたらしながら逃げて行ってしまった。

私は、その熊を追って山の奥深くに入っていった。熊の血のあとは、ぽっかりと開いたほら穴の中につながっていた。私は、弓に矢をつがえてほらあなの中に飛び込んだ。

何とそこには、金色に輝く仏様が立っていた。そして、仏様の左の胸には、弓矢が突き刺さっていました。「私が、はなった矢では。」と思うと、もったいなくて、気をうしなってしまった。

気を失っている有頼に仏様の声が聞こえてきた。

「ありよりよ。この立山は、地獄も極楽も有るといふ山なのだ。人はこの山に登ることでいろいろ悩みから救われるのだ。しかし、残念なことに、人々はこの山のことは知らないし、登る道もない。そなたに、この立山を開き、おおぜいの人が上れるようにしてもらいたいと思って、白タカや熊に姿を変えてここまで導いてきたのだ。」

★ありより起きる

「こうして、わたしは立山のふもとの芦峠や岩峠にお寺を立て、立山への道を開いたということじゃ。」

さてさて、見れば、皆さん、わたしの付けた明かりで、これから楽しい時を過ごそうというところ。ながいをして、これ以上邪魔をしてはいけない。そろそろ引き上げよう。

そうそう、みなさん。わたしが開いた立山の素晴らしい自然を大切にしてください、そしてまた遊びにきなされ。楽しいときをすごされなさい。（退場）

☆司会：交流の時間につないでいく。